

取組名称	農業3.0！最先端の自然栽培でorganic cityしおじりの実現			団体設立後の経過年数	7年目
応募取組主体名称	リジェネラティブ農家 中村小太郎の挑戦	活動地域	長野県塩尻市	応募取組の活動年数	7年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025いのち動的平衡賞				



取組の要旨

- 自然栽培でリジェネラティブ農業（環境再生型農業）の実践
- 学校給食の有機化
- 一次産業の収益化
- 地域から孤食をなくす、半貧困活動

実績の要旨

- 自然栽培のコシヒカリ、無農薬無施肥の実現。塩尻市ふるさと納税返礼品に選出
- 市議会へ学校給食有機化請願、満場一致で採択、市内3校で試験運用開始
- まったく新しい地方公共団体の独自認証制度の提唱、事業化推進。収益化のための施策
- NPO法人えんしょく設立、毎週の子ども食堂の実施、長野県元気づくり支援金での常設子ども食堂解説・運用

取組評価の要旨	環境への貢献	無農薬無施肥委による土地改良型農業の実現。無施肥によるCO2削減に寄与
	社会・経済への貢献	地域から孤食をなくし、コミュニティの再生。一次産業の収益化。
	地域資源の活用	耕作放棄地の資源化、60aから2haへ拡大、3年以内に20ha耕作予定。
	普及・汎用性	市内13校の学校給食有機化による自然栽培農家の増加。
	革新・ユニーク性	化学物質に頼らない物理的な紙マルチでの抑草。
	継続性	稲作農家の黒実家、ボランティアの育成。信濃毎日新聞農業コラム（月1）地元FMでの発信。

展望の要旨

農家の黒字化のために、自然栽培米での酒造構想。